

## S病棟における口腔ケアの質向上と統一のための取り組み

中村早希 小滝一葉 八重尾悠 田辺重鐘 草彌夏子  
鎌田真美 坂本琴絵 高野朝子 伊藤由紀恵 山田弘美

Key Word: 口腔ケア, 口腔内アセスメントツール

## 要 約

S病棟における口腔ケアの現状を評価するため、口腔ケア技術チェック表を作成し調査した。その結果をもとに、独自に知識・技術の充足に向けた勉強会を摂食嚥下障害看護認定看護師に依頼し、S病棟看護師全員へ実施した。勉強会後の口腔ケア技術の変化を評価したところ、全ての項目で「出来ている」の割合が上昇した。また、院内共通口腔内アセスメントツールを用いた患者口腔内環境の評価では、全ての患者に改善がみられた。このことから、課題を明確にした上で行った勉強会、及び院内共通口腔内アセスメントツールの使用は、部署の口腔ケアの質向上と統一に有効であった。

## Abstract

In this opportunity, to examine the current situation of oral care for patients, we created a program for assessment of oral care practice, and assessed the current situation of performance in this facility using the program. Based on the results of assessment, we attempted to advance knowledge and develop our practical skills of oral care through the study sessions given by a certified dysphagia care nurse. After study sessions, all attendees got scores relating to an accomplishment of each content in the assessment program we created, considerably higher than before. In addition to that, investigation with an assessment tool for oral condition, which is common in this facility, revealed that the sanitary conditions in oral cavity of all patients were improved. Consequently, conducting study sessions aimed to pursue a detailed agenda and investigation with an institutional common tool for assessment of sanitary condition in oral cavity of patients were suggested to be useful.

## はじめに

S病棟は脳卒中センターであり、意識障害や麻痺等により自ら口腔ケアを行うことができない患者が多く、1日4回の口腔ケアを行っている。しかし、意識障害により開口に協力が得られない患者への口腔ケアは、一般的なケア方法よりも難しく、十分な観察やケアが行えていない現状である。また、口腔ケアに関する勉強会の実施やスタッフの技術確認を行う機会がない場合、独自の手法でケアが行われていることが殆どであり、スタッフの口腔ケアに対する意識や技術に差があるのではないかと考えた。口腔ケアは、入院早期から介入できる看護ケアの1つであり、爽快感が得られるだけでなく、口腔内の清潔を保ち、誤嚥性肺炎を防ぐ生命維持に最も重要なケアである。角保らは、口腔ケアは口腔内の細菌数を少なくし、細菌叢を正常化し誤嚥性肺炎の起炎菌を減少させておくことに繋がり、誤嚥性肺炎の最大の予防策<sup>1)</sup>と述べている。したがって、スタッフ全員が十分な口腔内のアセスメントをした上で、その患者の状態に合ったケアを実施できる知識と技術の獲得が必要と考え、取り組みを行った。

## 研 究 目 的

S病棟における口腔ケアの現状を評価し、効果的な口腔ケアの獲得を目指した勉強会を行い、口腔ケアの質向上と統一を図る。

## I 研 究 方 法

1. 対象: S病棟看護師34名
2. 期間: 平成30年8月～平成30年10月
3. 方法
  - 1) 研究者が独自に「口腔ケア技術チェック表」(表1)を作成し、摂食嚥下障害看護認定看護師により施行した勉

旭川赤十字病院 SCU病棟

Approach to improve the quality of oral care practice for patient and unify the procedure in the stroke care unit  
Saki NAKAMURA, Ichiha KOTAKI, Haruka YAEAO, Akane TANABE, Natsuko KUSANAGI  
Mami KAMADA, Kotoe SAKAMOTO, Asako TAKANO, Yukie ITO, Hiromi YAMADA  
Japanese Red Cross Asahikawa Hospital, Stroke Care Unit

勉強会前後の自己評価による比較検討を行った。口腔ケア技術チェック表とは、「物品準備」「患者準備」「口腔ケア方法」「後の観察ケア」の4つのカテゴリーからなる全22項目で構成され、出来ている・出来ていないの2段階で評価するものである。

- 2) 勉強会后、対象であるS病棟看護師34名の技術を、口腔ケア技術チェック表を用いて研究者2名以上で他者評価した。
- 3) 病棟看護師は、院内共通口腔内アセスメントツール(表2)を用いて、研究期間中に口腔ケアを要した患者6名の口腔内環境を評価した。その結果を研究者で再評価した。院内共通口腔内アセスメントツールとは、Oral Health Assessment Tool(OHAT)を使用しやすく簡略化したツールであり、平成30年に当院摂食嚥下チームが独自に作成したものである。「口唇」「舌」「歯肉・粘膜」「口腔清掃」の4つのカテゴリーで構成され、健全を0点、やや不良を1点、病的を2点の3段階で評価する。

#### 4. 倫理的配慮

本研究の目的を説明し、調査から得られたデータは個人が特定されないよう無記名で集計処理を行い、終了後破棄した。調査協力は自由意志であり、調査に協力をしなくても不利益が生じないことを説明した。

## II 結 果

対象の属性は、看護経験年数0-3年目15%、4-6年目9%、7-10年目20%、11-15年目23%、16-20年目19%、21年目以上18%、平均は11.4年であった(図1)。

勉強会実施前後で行った口腔ケア技術チェック表の自己評価を比較すると、「物品準備」は87%から99%、「患者準備」は90%から98%、「口腔ケア方法」は88%から94%、「後の観察ケア」は91%から99%へ上昇した(図2)。

勉強会後に行った口腔ケア技術チェック表の他者評価は、「物品準備」は98%、「患者準備」は93%、「口腔ケア方法」98%、「後の観察ケア」は100%であった(図3)。

勉強会後の意見では「知識としてはあったが実践出来ていなかったことに気づいた」「アセスメントでみる視点がわかり、口腔内観察を十分に行いケアをするようになった」や「誤嚥予防のためにポジショニングや吸引準備をするようになった」などがあった。院内共通口腔内アセスメントツールの結果は、自己・他者評価ともに、患者Aはスコア1点から0点、患者Bでは3点から0点、患者Cは1点から0点、患者Dは2点から0点、患者Eは4点から1点、患者Fは4点から0点となった。スコアの平均は前2.5点から後0.17点へ下降しており6名全ての口腔内環境の改善を認めた(表3)。

## III 考 察

勉強会前後の口腔ケア技術チェック表の比較において、全ての項目で「出来ている」の割合が上昇していたこと、院内共通口腔内アセスメントツールによる患者の

口腔内環境の改善を認めていたことから、部署の口腔ケア技術は向上したと評価する。勉強会により根拠に基づいたケアの行動化に繋がり、患者の口腔状況に応じたケアが実践できたと考える。また、院内共通口腔内アセスメントツールの活用は、口腔内環境を可視化でき、継続的な観察とケアを行う上で有効であった。成澤らは、「簡易口腔アセスメントを導入しただけでは、口腔ケアの質を向上させることは難しいことが推察され、具体的な知識や技術の拡充の必要性がうかがえた<sup>2)</sup>と述べている。このことから、院内共通アセスメントツールの使用に加えて、口腔ケアの知識・技術を全スタッフが再確認でき、患者の口腔内環境が改善したと考える。今後も定期的な勉強会を開催し、S病棟の患者に合わせた口腔ケア技術の習得と向上に努める必要がある。

現在、院内共通口腔内アセスメントツールの活用について明確に定められていないため効果的な活用に向けて検討が必要である。

## IV 結 論

勉強会と院内共通口腔内アセスメントツールの使用は、部署の口腔ケアの質向上と統一に有効であった。今後は、定期的な勉強会の実施と院内共通口腔内アセスメントツールの活用方法の検討が課題となる。

## 文 献

- 1) 角保徳: 日本老年医学会雑誌,50(4),465-468,2013.
- 2) 成澤健・前田邦彦: 看護師による要介護入院患者の口腔ケアにおける簡易口腔アセスメントの有用性の検討,20(2),21-35,2018.
- 3) 馬明克成: 口腔ケアの基本を振り返り①口腔ケアの目的, BRAIN NURSING,33(10),8-9,2017.

表1. 口腔ケア技術チェック表

	勉強会前( / )	勉強会后( / )	勉強会后( / )
	自己 点数	自己 点数	他者 点数
<b>【1】物品準備</b>			
①洗口液			
②保湿剤			
③紙コップ3つ			
④舌ブラシ			
⑤歯ブラシ又はスワブ			
⑥口腔清拭シート			
⑦排唾管又は吸引チューブ			
<b>【2】患者準備</b>			
①患者への声かけ			
②患者のポジショニング (ヘッドアップ30度、健側下もしくは側臥位)			
③吸引準備			
④口腔内のアセスメント			
<b>【3】口腔ケア方法</b>			
①洗口液をスポンジブラシにつけ絞っている			
②粘膜全体をケアしている			
③奥から手前にスポンジブラシを動かしている			
④嘔吐反射が出現しないよう愛護的ケアができる			
⑤頬粘膜をストレッチするようにケアしている			
⑥必要時、唾液をSCチューブや排唾管を使用し吸引している			
⑦舌ブラシ、歯ブラシだけでなく、患者に応じた必要物品を使っている			
<b>【4】後の観察ケア</b>			
①口腔内全体(粘膜、舌、歯)を口腔清拭シートで拭きとっている。※シートがない時は、ソフケアガーゼなどを湿らせてから使用してもOK			
②口腔内～咽頭に残留した分泌物を吸引している			
③必要時、保湿剤を口腔内全体に塗布できている			
④保湿剤は必要以上に塗布していない			
合計点数			